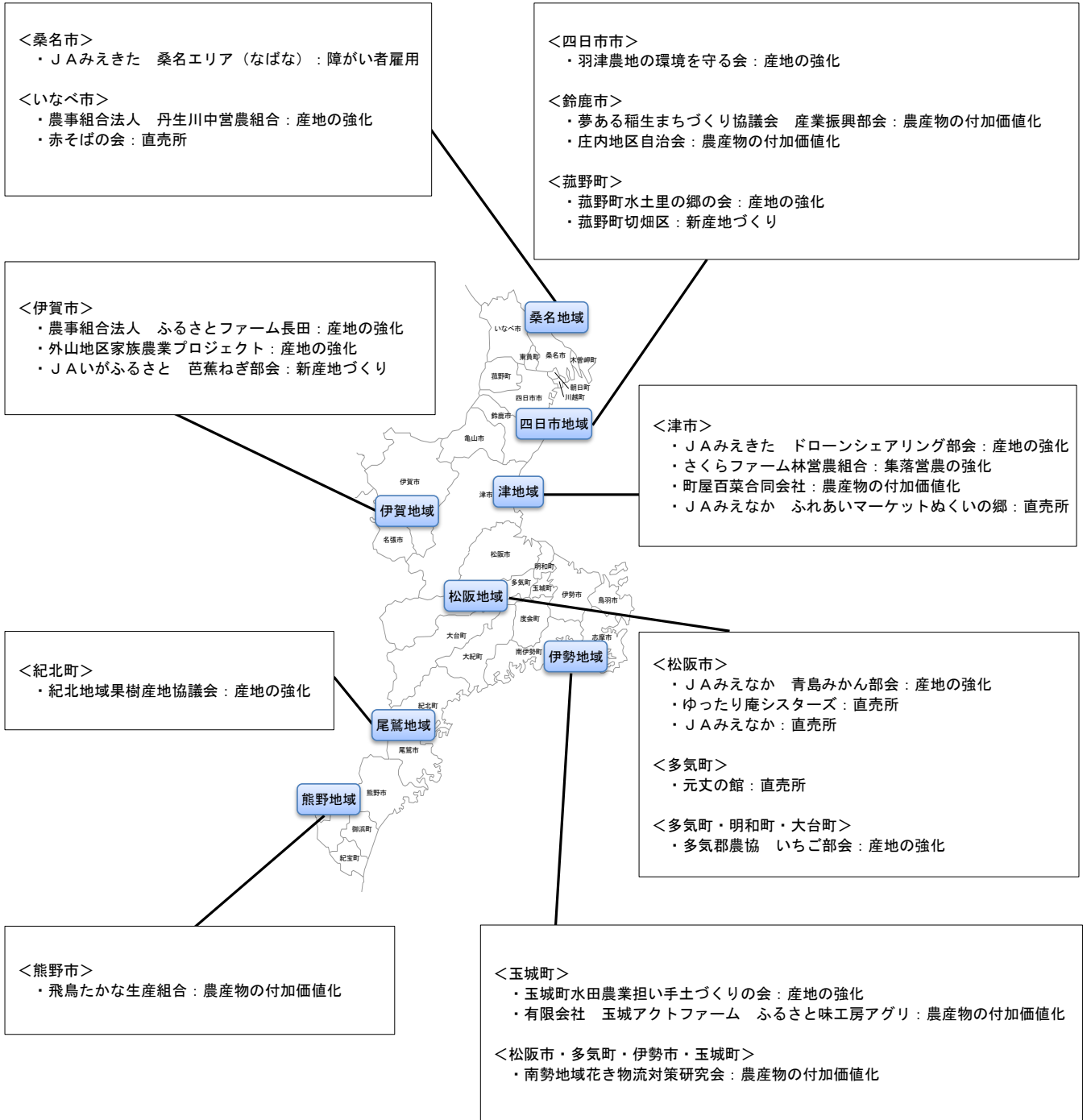


地域活性化プラン一覧（令和3年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

R3 プラン策定数 25プラン



地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
桑名	桑名市	J Aみえきた桑名エリア（なばな）	農福連携によるなばな産地の出荷量の拡大	<p>当地域は農業が盛んで、農業用水や排水機場、圃場整備事業等の施設整備事業が進んでいる。水稲と麦・大豆を栽培する土地利用型農業や、なばな等の露地野菜を取り入れた複合経営、トマトや花き、観葉植物等の施設園芸が定着し、県内有数の産地を形成している。</p> <p>一方で、栽培者の高齢化により、なばな生産者数や栽培面積は減少傾向にあり、新規栽培者の確保が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新規栽培者の確保・定着に向けた定年帰農者や露地野菜農家へのアプローチ、新規栽培者研修会の継続開催 ○総菜等の加工食品事業者と連携した「ちから菜」や「花蕾なばな」の新規格商品の断続的な出荷 ○水田農業の担い手を新たな栽培候補者としたなばな栽培の機械化体系の確立 ○なばなの生産に、福祉事業所の参画や袋詰め作業の委託等の農福連携を推進 	<p>なばなの小袋およびバラ詰め袋の外部受委託取組事例数：4事例</p> <p>外部受委託数量 ：小袋詰め20,000袋 バラ詰め1,000箱</p>	R3.10
桑名	いなべ市	農事組合法人丹生川中営農組合	農事組合法人丹生川中営農組合（営農組合を核とした水田農業振興）	<p>当組合は、いなべ市内の集落における人・農地プランの中心経営体であり、集落では利用権設定が増えてきたことから、協定を策定し、畦畔や農業用施設の維持管理に関して、地権者を含めた集落全体で取り組む規則を設定している。</p> <p>また、組合員の高齢化や世代交代が進んでいるが、先進的な取組の他、休暇を利用した小学生の農作業体験や餅つき大会等を開催し、若い世代が営農組合に関心を持つような工夫をしながら活動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ライスセンター設置の実現により、外部委託している乾燥調製委託費のコスト低減、組合員や集落住民の意欲向上 ○年間を通して「新蕎麦」の提供を可能とし、販路拡大、企業と連携したそばのブランド化 ○専従従業員の雇用や役員報酬等、福祉制度の見直し ○化学肥料に頼らない農業、土づくりの実践（SDGs） 	<p>ライスセンターの設置、低温倉庫拡大</p> <p>水稲直播の導入</p> <p>そばの安定生産・連作障害低減 43→65kg/10a</p> <p>小麦の単収向上：342→450kg/10a</p> <p>大豆の単収向上：100→120kg/10a</p> <p>乾そばの販売量拡大 R4：R2比1割増 R5：R2比2割増</p>	R4.2
桑名	いなべ市	赤そばの会	いなべ市藤原町長尾（「持続可能な地域づくり」プラン）	<p>長尾集落は、山や田畑に囲まれた小さな集落で、景観に優れ、湧水が豊富で希少種「ホトケドジョウ」の生息が確認されている。</p> <p>この集落は、以前畑地の80%近くが耕作放棄地であったが、その過半で赤そばを栽培し、利活用することで、耕作放棄地をほぼ解消した。</p> <p>一方で、水田の大半は担い手農家へ利用集積されているが、担い手を支える農家組合員の高齢化が進み、後継者の確保が課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○そば打ちビジネスをコミュニティビジネスに発展 	<p>赤そばの収益向上・作付面積拡大</p> <p>世代をこえた相談・交流施設の開設</p>	R4.1
四日市	四日市市	羽津農地の環境を守る会	羽津地区水田農業活性化プラン（第1ステージ）	<p>羽津地区は、小区画農地と住宅が混在しており、農地の大部分が水田である。</p> <p>水田への取水を安定させるため、多面的機能支払制度による農用地の保全管理に努めている。</p> <p>近年は、「スクミリンゴガイ」による水稲の被害が深刻化しており、水路の改修や、農薬に侵入防止網を加えた総合的防除が急務となっている。</p> <p>そのため、地域と農家で連携し、地区内の「スクミリンゴガイ」に関する総合対策技術の確立が求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内の「スクミリンゴガイ」に関する総合対策技術の確立 	<p>地区内の防除対策実施率：100%</p> <p>減収圃場率：0%</p> <p>農地集積面積：18.6→20.0ha</p> <p>農地集積率：35.2→37.9%</p> <p>自動給水栓等のスマート農業技術の導入</p>	R3.4

地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
四日市	鈴鹿市	夢ある稲生まちづくり協議会 産業振興部会	地域産米を活用した地酒のブランド化、及び地域特産農作物による地域おこしを進める稲生地区農業振興プラン	稲生地区は、水田を中心とした農業の盛んな地域で、農業従事者は水稻の他、露地野菜や果樹などの栽培・出荷・販売を行っているが、品目を絞り産地化の余地が残される地区である。 農業従事者の高齢化や農地面積が徐々に減少しており、計画的な担い手の育成と担い手同士が作業を補完できる営農体制の整備が必要である。	○委託量の拡大による稲生地区の豊かな地域資源の認知度向上と地域の活性化 ○市内飲食店や量販店、祭りやイベントでの提供による知名度向上 ○町おこしの重要度分析を行い、段階的な取捨選択と必要なイベントの追加による地域おこし推進	地酒「稲生おんど」のPR 稲生米「結びの神」のブランド化 地域イベントの発信 園児と父母を交えた芋掘り体験の実施 小学生5年生児童への稲作体験の実施 「稲生を食べよう秋の収穫祭」の実施	R4.1
四日市	鈴鹿市	庄内地区自治会	鈴鹿市庄内地区における「鈴鹿市庄内地区そば研究会」の設立と「鈴風そば」の産地化等、そばを通じた地域の活性化プラン	庄内地区では、日本型直接支払交付金を活用した水田の維持管理を行い、水稻や小麦を生産している。 近年は、担い手の減少と獣害が問題となっており、試験的にそばを作付けしたところ、一定の成果があったため、そばの産地化と「鈴風そば」のブランド化に向けて、地域の人々と活動を始めた。 しかし、そばは獣害に強い作物ではなく、各地で獣害が発生しているため、令和3年度から積極的に獣害対策を講じ、そばの作付けを行っている。	○庄内地区そば研究会の立ち上げによる「鈴風そば」のブランド化 ○秋そばの栽培拡大 ○精選・脱皮・製粉・製麺機等製造機械の一式整備 ○道の駅や直売所、市内の量販店、飲食店の他、インターネット販売やイベント販売など多チャンネルでの情報発信	そば研究所の設立 そば打ちの段位取得者育成 製造機械の整備（R4～5） 地産地消のレシピ発信（R6） 加工レベルの統一、職人の資質向上 推奨品種：9割以上 栽培農家：3経営体以上 栽培面積：20haまで拡大	R4.2
四日市	菰野町	菰野町水土里の郷の会	菰野町大字音羽地区	音羽地区では、農地水環境保全向上対策の先進的な営農活動と無農薬大豆に取り組んでいる。 また、絶滅危惧種IB類の「ホトケドジョウ」の生息地になっており、毎年水路の清掃と生息生物の調査を行っているが、後継者不足により、畦畔の草刈りや水路の清掃は、認定農業者や営農組合に頼っている状況である。 併せて土砂流入や獣害により、田畑や山の荒れが発生し、現在は多面的機能支払交付金を活用し補修や更新を行っているが、今後地主の協力を得て活動できるか不安な状況である。	○水路やパイプラインの維持、耕作放棄地の発生防止、年1回の水路清掃と生息状況の把握 ○耕作条件に満たない遊休農地へのコスモス植栽 ○学校教育と連携し、体験学習や農業を含めた地域の歴史・文化の伝承	ホトケドジョウの保護：1回以上/年 景観作物の植栽：毎年 小学校の総合学習 2年生 大豆：1回以上/年 5年生 米：1回以上/年	R4.2
四日市	菰野町	菰野町切畑区	獣害対策を図った農地での持続可能な農業の実践	菰野町切畑区は、鈴鹿山麓中にある小さな集落で、高い標高に開墾した水田の大半で、水稻を作付けしている。 集落の過疎化、高齢化が進む中で、獣害が多発する地域であるため、獣害対策の更なる省力化や低コスト化、その効果の永続が課題である。 また、農業従事者の所得向上や付加価値向上に向け、地域独自の新作物等の導入が必要である。	○大規模産地にはできない付加価値を高めた農作物の栽培 ○生産者が喜びを持って活動を続けられる取組	獣害対策の高度化 新作物・新品種の導入 獣害対策の発信	R3.5

地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
津	津市	J Aみえきた ドローンシェア リング部会	農機のシェアリングシステムの構築による省力低コスト農業の確立	当地域の気候は温暖で、水稻栽培に適していることから、自作地で水稻栽培する農家が多かったが、地域全体の高齢化により営農継続が困難な世帯が増加していた。 そのような中、新規営農者が担い手となり、栽培技術の指導を受けつつ、経営規模を拡大している。 一方で、水田の集積は中小規模でとまっておろ、担い手が不足しているため、スマート農業による省力化が望まれるが、機材の価格に対して費用対効果が見込めず、導入への問題となっている。	○若者が農業に興味を持ち、新たに農業に参入したいと思える魅力ある農業を核とした活力ある地域活動 ○農作物の収量向上と品質向上、低コストが実現できる農作業体系の確立	労働時間：10%軽減 リモートセンシングとドローンの作業運動による効果的追肥の収量：5%増 害虫等着色米割合の低減：11→6% 売上額の向上：3%	R3. 12
津	津市	さくらファーム 林営農組合	林地区における獣害対策との二入三脚での営農体系の推進	当地区は、津市の北西部に位置し、大半が山林や農地である。田では主に水稻「コシヒカリ」、畑では野菜、果樹が中心に栽培されている。 約10年前からサル、シカ、イノシシの被害が問題となっているが、個人所有では農地を守るための獣害対策の有無や方法が異なり、山間部付近では獣害がより深刻で、耕作放棄地となる農地が発生していることから、獣害対策が喫緊の課題となっている。	○獣害対策組織と連携した地域一体での活動	集約面積：12ha トラクター、コンバインの保有 育苗施設・乾燥施設の保有 経営作物の複合化 法人化 経営黒字化	R4. 3
津	津市	町屋百菜合同会社	町屋芋による耕作放棄地の再生と地域の元気づくり	町屋地域の東側には、畑地が広がっており、昭和～平成初期は盛んに栽培がされていたが、近年は後継者不足の影響により、耕作放棄地が増加している。 耕作放棄地の中には雑草や灌木が茂った農地もあり、害虫や小動物の発生等、周辺の農地や住宅に悪影響をおよぼしている。 そこで、当該農地において、町おこしの有志がサツマイモを作付けし、耕作放棄地の解消に向けた取組が行われている。	○サツマイモ栽培や芋焼酎製造の継続と、他のサツマイモ加工食品の製造の検討 ○耕作放棄地のさらなる活用に向けたサツマイモ以外の作物の作付け検討	サツマイモの栽培 サツマイモ以外の作物の栽培検討 芋焼酎の製造・販売 酒販免許の取得 サツマイモ加工品の製造検討 イベントの開催 耕作放棄地の減少	R3. 5
津	津市	J Aみえなか ふれあいマー ケットぬくいの郷	ふれあいマーケットぬくいの郷を核とした地域農業農村の再生・活性化	J Aの農産物直売所「ふれあいマーケットぬくいの郷」では、小規模な高齢農家を中心となって、環境に配慮した安全な米や野菜、果樹等を出荷するとともに、地元事業者が弁当や総菜、和菓子等を出荷している。 地域住民の生活を支える基盤として経営を継続させるため、老朽化した施設の修繕や店舗レイアウトの改善、販売品目の確保が必要である。	○津市白山町を中心とする地域の野菜や果物等の販売 ○女性部との連携による、新商品開発や体験活動等の消費者と生産者を繋げる取組	産地直売所運営強化のための研修会、視察等：年1回 出荷事業者数の増加：150→180人 女性部等との連携企画：総菜・弁当等の新商品検討、体験活動の試行	R4. 2

地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
松阪	松阪市	J A みえなか 青島みかん部会	松阪青島みかん産地の存続に向けた販売作戦	当地域では、果樹栽培の歴史が古く、現在は青島温州や寿太郎温州を主力とするみかんの他、ナシやカキの系統出荷が行われている。みかんについては、貯蔵により他産地の柑橘類がない時期に出荷できる産地として、市場から評価されている。 今後、収益向上や後継者の栽培意欲向上に向け、実需者が求める販売規格に対応していく必要がある。	○市場や実需者、顧客ニーズの情報収集、系統出荷の販売体制の再検討	マーケティング調査の実施 新規販売戦略の決定 新規販売体制の導入と効果検証	R4.3
松阪	松阪市	ゆったり庵シスターズ	ゆったり庵シスターズ地域活性化プラン 「地域の資源と文化を活かした豊かな暮らしづくりの実現にむけて」	豊地域は山の谷間にあり、水田を中心とした稲作地域である。イモ類（特にサツマイモ）の発育が良いことから、広く栽培されており、綿やユウガオ（かんびょう）等も栽培されている。 また、地域愛を育む活動により、地域のまとまりは醸成されつつあるが、依然として高齢化や後継者不足、地域交流の停滞といった問題があり、地域活動への積極的参加や、魅力の認識を高める必要がある。	○小学校との連携による子供を対象にした梅干しづくりや、昔の道具披露等の体験教育の実施 ○協議会との連携による季節の料理づくりや老人会活動の支援 ○地元イベントへの出店による農作物や漬物等の販売 ○小学校や協議会との連携による田んぼアート体験の実施 ○朝市隣接の圃場や近隣の圃場を利用した、若者世代に向けた体験農園の開設	昔の道具披露（継続）：1回/年 郷土料理体験 小学生対象（継続）：4回/年 老人会対象（継続）：4回/年 薬王寺地区（新規）：1回/月 イベントへの参加（継続）：2回/年 定期朝市の開催（新規）：2回/月 農業体験の実施 体験農園の開設（新規）：随時 田んぼアート作業体験（発展）：随時 その他（視察・研修等）（継続）：1回/年	発展 R3.7
松阪	松阪市	J A みえなか	きつする黒部地域活性化プラン 「農産物直売所を核とした地域農業の活性化」	松阪地域では、農業従事者の高齢化や後継者不足による放棄放棄地の増加や、野生鳥獣による農作物被害の増加が問題となっている。 さらに、消費者ニーズが多様化していることから、従来の市場出荷を中心とした販売では、産地の維持が困難になっている。 また「きつする黒部」は、県下最大級の売り場を誇るファーマーズマーケットであり、農業従事者のために第一に開設された直売所である。	○農産物の旬の時期に合わせたイベントの開催 ○直売所の活性化による、地域農業振興や農地保全、高齢者の生きがい創出、生産者の所得向上 地域内外の交流増加	研修会の開催：各部門 2回/年 視察研修：2回/年 きつする食堂への地場産農作物の提供 イベントの開催：1回/月	R4.3
松阪	多気町	元丈の館	直売所等を通じた地域農業の活性化	波多瀬地区内では、日本薬草学の先駆者「野呂元丈」の生誕地で、その偉業を偲んで平成12年に「元丈の館」が設置された。 当地区では、若者の働く場所が少なく、松阪駅まで車で約30分かかるため、住民の多くは地区外へ就業している。農業従事者の高齢化や後継者不足、農地の荒廃が危惧されるため、人口の流出を食い止めることが課題となっている。	○営農組合を通じた農作業体験 ○元丈の館と営農組合、波多瀬地区の共催による春・秋祭りの開催	元丈の里の祭りの開催：春と秋の最低2回/年 米粉を利用した新製品製造と販売拡充：年間2品目の新規開発 野菜類の家庭菜園での栽培講習会の開催：2回程度/年 ハーブ栽培、ハーブを利用した製品づくりの講習会開催：2回程度/年	R4.3

地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
松阪	多気町 明和町 大台町	多気郡農協 いちご部会	多気郡におけるイチゴ産地活性化への取組 ～環境にやさしいイチゴづくりで産地の魅力アップ～	イチゴは多気郡農協の主力品目であり、部会員33名、栽培面積3.8ha、系統出荷量77.5tで、ここ数年は微増傾向である。しかし、部会員の高齢化が進むとともに、病害虫の薬剤抵抗性の発達による収量への影響により、近い将来一気に産地規模が縮小することが予想される。 そこで、総合的な病害虫管理やスマート技術の導入により、生産の安定を図り、魅力あるイチゴ産地として新規栽培者を確保する必要がある。	○総合的な病害虫管理や施設環境の効率的制御、流通資材の検討など、環境にやさしく効率的な新技術の導入・実践	天敵を活用した害虫防除対策、定植苗の高濃度炭酸ガス防除試験の実施 環境モニタリングによる栽培管理 環境にやさしい通いコンテナによる流通 栽培面積の維持 系統出荷量の向上：77.5→95t 栽培履歴記帳の実施率：100%	発展 R4.3
伊勢	玉城町	玉城町水田農業担い手土づくりの会	持続可能な水田農業を目指して	玉城町では、水稲の他、小麦、露地野菜、イチゴ等施設野菜、花き、豚・肉用牛等畜産、柿等果樹の生産が営まれている。 水稲作については、大型機械の導入により担い手への集積が進んでいる一方で、水路の老朽化が進行している。 また、農家の高齢化と減少で、年々水稲の受託面積が増えている。 あわせて、イノシシ等の獣害が拡大しており、現時点では柵等の設置がなく、収穫を断念せざるをえない圃場も出てきているため、獣害対策が喫緊の課題となっている。	○獣害対策を考慮した作付体系による経営の安定化 ○ひまわりやマリーゴールド等の緑肥効果のある景観作物の栽培による、地域の癒しとなる交流の場の設置	獣害で収穫を断念する圃場数：0 小麦の反収：6俵/10a	発展 R4.3
伊勢	玉城町	有限会社 玉城アクトファーム ふるさと味工房 アグリ	これからも、地元可愛され、支えられ続ける直売所を目指して	玉城町では、水稲の他、小麦、露地野菜、イチゴ等施設野菜、花き、豚・肉用牛等畜産、柿等果樹の生産が営まれているが、生産者の高齢化や獣害被害により、農産物の生産量が以前のように確保できないといった問題がある。 本直売所は、農産物の販売だけでなく、農業体験やイベント、地元農産物を活用した加工体験教室を開催し、農に親しむことができる施設として利用されている。直売所の安定的な運営に向け、生産者の育成・確保による農産物の確保が重要であり、生産者も含めた利用者の増加が重要である。	○地域資源の有効活用と生産者の育成による、販売農産物の確保と魅力ある直売所づくり	直売所利用者（生産者）との定期的な話し合いおよび情報共有：2回以上/年 情報発信に関する研修等への参加 販売量（出荷量）：50→60t 販売額：R2実績の2割増	R4.2
伊勢	松阪市 多気町 伊勢市 玉城町	南勢地域花き物流対策研究会	コロナ後を見据えた物流と販売の効率化による持続的経営発展をめざして	南勢地域は、温暖な気候に加え、中京・阪神の大消費地に近いため、様々な農畜産物の産地が形成されている。 当初、花き生産者間で検討していた物流対策に運送会社が参画したことで、生産者と運送会社の連携が生まれ、効率的な輸送体制の構築を図っている。 一方で、近年は燃油や資材の価格高騰により運送費が大きく上昇している他、花きは流行の変遷も早く、長引くコロナ禍の巣ごもり需要やその他ニーズの把握等、生産・販売戦略の構築が必要となっている。	○生産者と運送会社の協創による効率的な花き輸送体制の構築 ○消費者ニーズを踏まえた売れる商品づくり ○組織力を生かした新たな販売体制の構築	新たな共同集荷場の設置：2箇所以上 先進地視察または研修会開催：1回/年 市場や実需者と交流機会の創出：1回/年 新品目導入、商品開発：6経営体以上 売上高の増加	R3.12

地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
伊賀	伊賀市	農事組合法人 ふるさとファーム 長田	農事組合法人ふるさとファーム 長田を中心とする水稲の生産、 菜種油の長田ブランドの深度化 と、組合内の女性を中心とした 梅干し等の生産販売並びに農業 経営発展のための地域活性化プ ラン	長田地区は、西高東低の丘陵地帯であり、景観 が優れた田園風景が調和した5つの地区からなっ ている。 また、国道沿いに集落が連なっているため、相 互の連帯意識が高く、結びつきが強いのが特徴で ある。 高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、さら には米価下落、肥料や機械の高騰等、経営環境は 悪化傾向であるが、代々受け継いだ田畑を自分の 代で荒らすまいと共通の認識で繋がっている。	○個人の経営赤字を解消した地域の活性化 ○安定した農業経営による次世代への継承	経営規模に応じた作業機械の導入・ 作業体制の確立 菜種の反収向上：50kg/10a 作付面積：500a 小麦の反収向上：240kg/10a 作付面積：200a 梅干しやきゅうちゃん漬の生産・販 路拡大 遊休地を利用した野菜栽培の検討 米の販売方法と販路拡大の検討 後継者の確保	R3.12
伊賀	伊賀市	外山地区家族農 業プロジェクト	スマート農業機械を活用した伊 賀市外山地区伊賀米コシヒカリ 品質向上プラン	外山地区を含む府中地区は、「御墓山古墳」を はじめ、歴史的文化財が多く残されており、文化 財保護の観点から現状の地形を残した基盤整備を 行っているため、小区画で不定形の水田が多く 残っている。 水田では、水稲「コシヒカリ」を中心に作付け されている。令和元年産では、カメムシによる吸 汁被害や高温による登熟不良等により1等米比率 が大幅に低下した。そこで、地区全体で「コシヒ カリ」の品質向上に向けた取組を実施していく必 要がある。	○地域全体でのスマート農業技術を活用した水管 理、追肥、病虫害防除による米の品質向上、経 費節減	外山地区の1等米比率：20%以上向 上 スマート水管理による水管理の省力 化 ドローンによる地区一斉カメムシ防 除 センシングおよび施肥管理	R3.11
伊賀	伊賀市	J A いがふるさ と 芭蕉ねぎ部 会	「伊賀の芭蕉ねぎ」の生産販売 体制の強化とブランド力の向上	耕作放棄地の増加を防ぎたいとの思いから、横 山地区にある農業資材メーカーを中心に白ねぎの 栽培を始め、令和2年からは、J A と福祉事業所 との3者共同で「伊賀の芭蕉ねぎ」のブランド化 に取り組んでいる。 また、白ねぎ栽培に取り組む農家は増加傾向で あるが、栽培技術にばらつきがあり、秀品の出荷 量が安定しないため、新規栽培者の秀品率の向上 が課題である。	○新規栽培者の確保、栽培面積の拡大 ○単収の増加、秀品率の向上、出荷形態の多様化 ○販売促進を強化した消費拡大	新規栽培者の確保 生産者数：50名以上 栽培面積：10ha増 栽培研修会の実施：2回/年 収量・品質向上 防除・除草技術：1回/年 秀品率目標：11～12月 80%以上 1月 70%以上 ※10月、2月は「伊賀の芭蕉ねぎ」と して販売しない期間を含むため除外	R3.12
尾鷲	紀北町	紀北地域果樹産 地協議会	果樹産地構造改革計画	紀北町は総耕地面積280ha、総農家数210戸で、 総農家のうち耕地面積1ha未満の農家が87%を占 めている。 農業については、「コシヒカリ」の単作や施設 園芸、柑橘が盛んで、その他露地野菜のヤツガシ ラ（里芋）やニンニク、採卵鶏が営まれている。 果樹栽培においては、高齢化や後継者不足によ る経営の断念や、耕作放棄地の拡大が懸念されて おり、担い手の確保や消費者ニーズに応じた品種 や販売方法等、消費者に支持される果実生産が課 題となっている。	○新たに農業を志す人や移住者を担い手とする仕 組みづくり ○農地中間管理事業と合わせた生産基盤整備の推 進、後継者のいない生産者に対する第三者への 経営継承の推進 ○品目・品種構成の検討 ○消費者ニーズの動向を的確かつ迅速に把握した 計画的な生産・出荷、多様化する需要に対応し た販売戦略の展開	担い手の数：全農家 17戸 認定農業者6戸 担い手の園地集積・集約化 総園地面積：3,930a 認定農業者面積：757a	R4.3

地域活性化プラン一覧（令和3年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
熊野	熊野市	飛鳥たかな生産組合	飛鳥たかな生産組合（「熊野特産たかな漬」の次代への継承に向けて）	<p>当地域では、隣接する五郷町において以前から特産化が進められていた「たかな漬」に着目し、生産組合が結成された。その後加工所を建設し、たかなの栽培・加工を一体的に行うことで、担い手の育成・確保を行っている。</p> <p>たかなの生産量は、以前15～18tあったが、生産部員の高齢化により6tまで減少している。取引先の需要はあるものの、9月～11月は販売する商品がなくなる状況が続いており、たかなの生産量の確保と商品価値の向上が課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○たかなの生産・加工・販売の組織化、担い手の確保・育成 ○新規生産希望者に向けた栽培実習の実施、海岸部と山間部の気候の違いを生かした生産リレー体制づくり ○担い手の確保・育成に向けた組織形態のあり方の検討 	<p>たかなの生産拡大と一等葉比率向上</p> <p>たかな生産量：7.9→14t</p> <p>たかな生産者数：10→16名</p> <p>一等葉比率：61→75%</p>	<p>発展 R4.3</p>

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122